

令和3年度入学試験問題（前期日程）

筆記試験

教育学部 学校教育教員養成課程
中学校教育コース 教科教育専攻
美術教育専修

注意事項

1. 受験番号を、解答用紙の所定の欄に記入すること。
2. 解答は、必ず解答用紙に記入すること。
3. 解答時間は、120分である。
4. 試験開始の合図があるまで、問題を見てはいけない。
5. 鉛筆（シャープペンシルを含む）書きにすること。

問 題

次の文と写真を参考にした上で、「彫る」や「刻む」をテーマとしたユニークな遊びを提案
しなさい。また、提案した遊びでどのような感性が育まれるかを推測し論じなさい。

非公開

（池澤夏樹、『きみが住む星』、文化出版局、1992年、91～93ページ、抜粋・一部改変）

注 意 事 項

1. 遊ぶ場所は自由に設定して良い。
2. テーマは両方でも、どちらか一方だけでも良い。
3. 人数や性別、年齢構成は自由。
4. 遊びは幾つ解答してもよい。
5. 絵や図を描いて説明を補ってもよい。
6. 解答用紙は罫線の有るものと無いものがあるので、自由に使用してよい。
7. 字数や解答用紙の枚数に制限はないが、No. 欄に通し番号を記入すること。

令和3年度入学試験問題（前期日程）

筆記試験

教育学部 学校教育教員養成課程

中学校教育コース 教科教育専攻

美術教育専修

出題の意図

教育学部のアドミッションポリシーでは、教育という営みの本質を学びつつ、主として学校教育に関わる今日的な問題に真剣に取り組もうとする、「教員として主体性を持ち、子ども及び社会と関わっていきたい人」「教育の理論と実践を広く深く学ぶ意欲のある人」「高等学校での基礎学力を身につけ、思考力、判断力、表現力を持つ人」「沖縄の歴史的・地理的・文化的・社会的特性を活かしながら、グローバルな視点に立って教育活動に携わりたい人」を求めており、その適性の中でも特に美術教育での適性を見るために、筆記試験においては「発想力や鑑賞力、造形教育への関心度」を見ることにしている。

題材として取り上げたのは、小説家・池澤夏樹による絵はがき形式の短編作品である。そこではある村に古くから伝わる信仰と、それに伴い継承されてきた人々の石を彫り刻む習わしが図版とともに語られている。ここでの「彫る」「刻む」という行いは、石に形を彫り刻む物質的な事柄だけに留まらず、例えば「心に刻む」などの精神的なもの、または「時を刻む」といった時間的なものなど、幅広い捉え方や解釈が可能である。

本問では、示された文と図版をひとつの手掛かりとしながら、「彫る」や「刻む」という行いを独自の着眼点によって柔軟に理解し、「ユニークな遊び」へと転換・構想することができるかどうかを見る。そして、その遊びから育まれる感性をイメージし、論理的に推測できるかどうかについても見る。